

社会福祉法人梓友会 法人本部平成 25 年度 事業報告

1. 理事会及び評議員会開催状況並びに承認事項

平成25年5月31日 第25-1回理事会・第25-1回評議員会

開催場所：下田東急ホテル会議室

出席：理事7名（うち3名書面出席）、監事1名、評議員12名

承認事項：平成24年度事業報告（全20事業）

平成24年度決算報告（全21会計）

介護保険システムサーバ更新

経理規程の一部変更

平成25年8月7日 第25-2回理事会・第25-2回評議員会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事7名、監事1名、評議員14名

承認事項：（仮称）小規模多機能型居宅介護みくらの里 建設用地の選定

（仮称）小規模多機能型居宅介護みくらの里 設計・監理業務に係る業者選定

（仮称）小規模多機能型居宅介護みくらの里 新築工事に係る入札

（仮称）小規模多機能型居宅介護みくらの里 新築工事に係る福祉医療機構への
福祉貸付金借入の申込みについて

平成25年10月11日 第25-3回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事7名、監事1名

承認事項：（仮称）小規模多機能型居宅介護みくらの里 建設工事請負契約の締結

（仮称）小規模多機能型居宅介護みくらの里 建築工事に係る福祉医療機構から
の福祉貸付金借入額の変更及び保証人不要制度の利用

平成25年12月18日 第25-4回理事会・第25-3回評議員会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事7名、監事1名、評議員13名

承認事項：平成25年度第一次補正予算（全21会計）

施設長の変更

特別養護老人ホーム梓の里空調設備改修の承認・入札執行

特別養護老人ホーム梓の里空調設備改修に係る修繕積立金の取り崩し

給与規程の変更（看護師夜間待機手当）

平成26年2月3日 第25-5回理事会・第25-4回評議員会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事7名、監事1名、評議員14名

承認事項：(仮称)小規模多機能型居宅介護みくらの里創設に伴う設備整備

(事務機器・家具・家電製品)に関する入札

(仮称)小規模多機能型居宅介護みくらの里創設に伴う設備整備(車両)の購入

平成26年3月12日 第25-6回理事会・第25-5回評議員会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事7名(うち2名書面出席)、監事1名、評議員12名

承認事項：平成25年度第二次補正予算(全21会計)

居宅介護支援事業所統合による運営規程の変更

小規模多機能型居宅介護みくらの里運営規程の制定

就業規則の一部改正

小規模多機能型居宅介護みくらの里創設に伴う建設工事変更請負契約

平成26年3月26日 第25-7回理事会・第25-6回評議員会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事7名(うち1名書面出席)、監事2名、評議員13名

承認事項：監事の選任

評議員の選任

平成26年度事業計画(全21事業)

平成26年度予算(全22会計)

介護保険指定更新に伴う運営規程の改正

2. 外部講師による講演会の実施

3/9 認知症啓発講演会(認知症施策総合推進事業/下田市委託事業)

演題：「認知症の理解と対策」

～疾患についての知識と周囲を取り巻く環境～

講師：櫻クリニック 院長 鈴木康弘 先生

会場：みくらの里 地域交流ホール

参加者：介護関連事業所、医療機関の職員、在宅介護者の家族等

3. ISOの推進

5/28～11/1 内部監査計画に基づき内部監査を実施

11/28～29 ISOサーベイランス審査(審査員：津島・桂田審査官)

1/14 JICQAにて登録維持確認(登録維持確認通知書受領)

有効期限：2016年3月3日

4. 施設長会議

毎月上旬に開催（年間 12 回、四半期に 1 回課長補佐以上が出席）

議 題 数値目標達成状況・運営状況報告（職員配置状況、利用者状況等）、評価・不適合報告、マネジメントレビュー指示事項対応状況報告、部門目標達成状況報告他
マネジメントレビューの実施（9月27日、3月28日）

5. 経営調整会議

毎月上旬に開催（年間 12 回）

議 題 月次予算実績対比表の報告と分析（イワサキ経営鈴木先生同席）

6. 労使協議会の実施

5/27 第 1 回労使協議会 平成 25 年度夏季一時金、処遇改善交付加算金、通勤手当
第二正職

10/28 第 2 回労使協議会 平成 25 年度冬季一時金、第二正職、看護職員夜間待機手当
処遇改善交付加算金、登録ヘルパーのタイヤ手当

2/10 第 3 回労使協議会 平成 26 年度定期昇給、第二正職

7. 福祉関係団体の各種セミナー参加

全国社会福祉施設経営者協議会、日本経営者団体連盟・社会福祉懇談会研修委員会、
全国社会福祉協議会、全国老人福祉施設協議会、東京経営者協会・新進経営者会、
日本介護経営学会、日本老年社会学会、つしま医療福祉研究財団

8. 静岡県社会福祉法人経営者協議会 東部地区経営協 事務局の運営

6/12 総会・合同研修会

演 題：「運営から経営とはどういうことか事例で学ぶ」

講 師：辻・本郷税理士法人 マーケティング部 総括部長 本間 秀司氏

会 場：ホテル沼津キャッスル

2/13 事務研修会

講演①：「経営者幹部・実践担当者の必須知識 ～消費税の基礎～」

講 師：株式会社イワサキ経営 経営企画室 室長 鈴木聡氏

演題②：「ご利用者が感動するサービスを実現する“人材育成システム”とは」

講 師：CB-TAG 代表 原田匡 氏

3/5 静岡県福祉職合同入職式

会 場：沼津リバーサイドホテル

参加者：東部地区の福祉職新規採用者（新卒者）38名

介護老人福祉施設 梓の里

平成25年度 事業報告

平成 25 年度事業計画	進捗状況
<p>1.ガバナンスを重視した経営強化</p> <p>(1) ガバナンスを意識した施設運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険法等の関係法令の遵守はもとより、広い意味でのコンプライアンス(社会的規範・モラル)を意識の上、施設の有機的なケアサービスを実践し、質の高いケアサービスの提供を図れるようにする。 <p>(2) 集団が自らを健全に統治する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の運営に「安全」「衛生」「事故防止」「感染症予防」に関するコンプライアンス(法令遵守)の周知徹底を図ることで、地域社会への信頼を得ることとする。 <p>2. 変革への取り組みを支える人材戦略</p> <p>(1) より良い人材の確保育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成については、本部教育研修計画に即し、確実に実行するとともに、医療連携等の外部研修への積極的な参加と施設独自の専門化による施設内研修会・勉強会を実施し、職員の育成を図る。 	<p>年度当初(4月)施設内研修にて社会的規範、モラルについての研修を実施、また食事委員会の設置により脱水が主要因の入院等がなくなり水分摂取への職員の意識の向上が図れた。今後の課題として職員全員の周知、新人の教育的効果を持たせるよう継続性について検討課題を残している。</p> <p>保健衛生委員会の設置では、職員全員によるシュミレーション(嘔吐物処理)の実践によつての感染症の予防及び感染症防止対策への意識の向上が図られ、また入浴委員会、排泄委員会では、浴室の安全と衛生管理の意識の向上が図られ、排泄委員会においては、排便困難者の便秘要因の検証等により利用者の体調の改善を図ることができた。</p> <p>人材育成については、専門家による認知症研修等で職員の認知症ケアにおける知識の向上と共に対応の方法の向上を図ることができ、今後は実践の中で認知症ケアの習得を図ることとする。</p> <p>今年度施設内研修の実績は以上のとおりです。</p> <p>平成 25 年 4 月 26 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業倫理、法令遵守及び 25 年度事業計画について <p>参加人数 29 名</p> <p>平成 25 年 7 月 18 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食中毒、感染症について <p>参加人数 30 名</p>

<p>3. 地域包括ケアの役割</p> <p>(1) 地域社会資源としての役割</p> <p>・地域に対して、公益性の理解を深めるため、積極的な情報発信等を実施すると共に、地域住民、老人会、民生児童委員、社会福祉協議会、ボランティア団体、包括支援センターとの連携（運営推進会議等の設置）を図る。</p> <p>4. キャリアパスの実施と充実</p> <p>(1) キャリアパスの周知</p> <p>・職員の向上心を図るため、資格取得の奨励等を行い、また、よりよい職場環境作りを行う為の職員アンケート調査を実施する。</p> <p>5. 財務強化充実と分析</p> <p>(1) 居宅事業所への定期訪問</p> <p>・梓の里の事業内容を積極的に各関連事業所へ情報の伝達及び定期訪問を行い、また利用者の増加及び目標を達成するためベッド空き状況、利用状況等について関連部署との連携を図る。</p>	<p>平成 26 年 8 月 22 日</p> <p>・「ストレスケア」→メンタルヘルス研修 参加人数 16 名</p> <p>平成 26 年 10 月 22 日</p> <p>・感染症対策研修 参加人数 29 名</p> <p>平成 26 年 3 月 5 日</p> <p>・認知症研修 参加人数 28 名</p> <p>平成 26 年 4 月 21 日</p> <p>・4 施設合同研修発表 参加人数 20 名</p> <p>地域に対して、ボランティア交流会等の開催を積極的に実施することで、地域への周知・信頼関係が向上し、在宅サービスの増加を図ることができ、今後も継続する必要性があると思われ、更には地域における相談窓口も開設（平成 26 年度より検討の上）することで、より一層の地域における信頼性を増すことができる。</p> <p>職員へのアンケート調査（ストレスチェック表）により職員個々のメンタルを把握することで、モチベーションアップに繋げる対応ができ、今後も職員の状態（メンタル面）を把握するために継続することとする。</p> <p>外部委託に関して、細部への分析・見直しを実施したことで、固定経費の項目に於いて改善を図ることができ、次年度も更なる分析をすることで経費の削減を図ることとする。</p>
--	---

<p>(2) 外部委託への見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部委託への細部の分析・見直しを実施し固定経費の削減を図る。 <p>6. 新規事業の推進</p> <p>(1) 小規模多機能型居宅介護施設の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は法人として、下田市に地域密着サービス事業である小規模多機能型居宅介護及びサービス付高齢者向け住宅を構築するため、地域のニーズ把握、地域への周知を積極的に行うこととする。 <p>7. 防災計画の充実と見直し</p> <p>(1) 地域の連携と近隣施設との災害時の応援協定の締結</p> <ul style="list-style-type: none"> 予想される大規模災害等に対応するため、防災訓練・防災教育を確実に実施し、職員の防災に対する意識の向上に努め、安全と安心を得られる施設運営の推進と防災拠点としての地域住民に対し周知を図り、また施設が果たす役割「避難場所」としての機能等利用者の安全が図られるように、地域との連携による訓練を実施し、地域一体の体制作りをする。 <p>8. メンタルヘルスケアの取り組み</p> <p>(1) メンタルヘルスケアの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> メンタルヘルスケアの充実を図るために嘱託医（産業医・精神科）への協力依頼、日々に於けるヒアリング、定期によるアンケート調査の実施をする。 	<p>実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合メンテナンスの業務分析及び見直しによる経費の削減 25年度契約金額 3,365,800- 26年度契約金額 2,930,400- 435,400 円の減額 <p>法人として、地域密着サービ（小規模多機能型居宅介護みくらの里）の構築の中で職員の地域への関心が強くなり、地域ニーズの情報量が増し更に地域との関わりを強くすることで利用者のサービスに結びつけることが増加（効率アップ）に繋がっている。</p> <p>施設が果たす大きな役割には、大規模災害における避難場所があり、その為に地域への周知の一環として、総合防災訓練への参加、行事への参加の呼びかけによって、理解を得ることができ、さらに多くの地域の方々の参加があり、今後地域の防災拠点として役割を継続していく。</p> <p>総合防災訓練の実績</p> <p>平成 25 年 6月19日</p> <p>平成 25 年11月 7日</p> <p>職員の働く環境の改善を図るため、アンケート調査を行い、職員要望等への対応が早急に実施でき、職員の定着率がアップに繋げることができた。</p>
--	--

介護老人福祉施設 みなとの園
平成25年度 事業進捗状況

平成 25 年度事業計画	進捗状況
<p>1.ガバナンスを重視した経営強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的責任の観点から、コンプライアンスを意識した施設運営を目指し、職員には倫理及び法令遵守の研修を行う。 ・生活機能向上を目標としながら、サービスの質と費用を検討し、収支状況の確認を継続的に実施する。 <p>2.変革への取り組みを支える人材戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人の使命である目的達成のため、その目的が達成されたビジョンが描ける目標管理の実施により、職員のモチベーションを維持する。 ・施設サービスでは、排泄では日中おむつゼロ、入浴では個浴の充実、食事では常食化を目指したケアの改善計画を推進する。 	<p>平成 25 年 7 月にコンプライアンスに関する施設内研修を実施した。 開催日：7 月 19 日（金）18 時～19 時 講 師：みなと園施設長・高橋安彦 参加者：27 名 尚、参加できなかった職員に対しては、資料を配布し、研修報告書を提出させている。</p> <p>平成 24 年度からの継続目標として、紙おむつの見直しを行っている。布パンツ（通気性が良く、かぶれにくい等の利点あり）を積極的に使用し、生活機能向上と経費節減の両方を実現している。 また、仕入れ先の変更と大量発注、セール利用等により以下の紙製品の経費削減を実現した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレトーパー30%削減（仕入先を丸富からアスクールに変更） ・コピー用紙 24%削減（仕入先を@オフィスからアスクールに変更） ・ペーパータオル 10%削減（発注方法の変更） ・ティッシュペーパー5%削減（仕入先を丸富からアスクールに変更） <p>梓友会経営基本方針及びみなとの園施設サービス基本方針とリンクするような部門目標の設定を行ったことで、目標が明確化され、四半期毎に進捗管理することで、職員のモチベーションが維持された。 尚、100%達成できなかった部門もあるが、今後に向けては、目標設定、評価方法の見直しを行い、達成可能な目標設定を行う。</p> <p>排泄における「日中おむつゼロ」への取り組みとして、リハビリパンツや声掛けなどにより達成できた。 入浴における「個浴の充実」は、介護の部門目標として取り組み、月 2 回の移乗勉強会を実施、マンツーマン入浴を確立した。また、平成 26 年 4 月 21 日の 4 施設合同施設内研修会でその成果を発表した。さらには、今年度の静岡県高齢者福祉研究大会にエントリーする予定である。</p>

<p>3.地域包括ケアの役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者の居場所では140万人が居宅というデータから、今後も通所介護の重要性は増加するので、認知症サポーター養成講座を受講し、地域に貢献する。 ・地域の社会資源として、ケアサービスの質の向上を目指して、施設ボランティアの養成と交流会を行う。 <p>4.キャリアパスの実施と充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成の観点から、職員満足度の向上を目指した取り組みとして、引き続き職員が介護実践する中でケアについてのより良い方法を見つけ、職員が実践的な活動を行い、静岡県高齢者福祉研究大会等において研究発表を行うことを支援していく。 <p>5.財務強化充実と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス区分毎に数値目標を設定し、月次での予算管理及び収益管理を行い、法人の導入する管理会計システムに協力する。 	<p>食事における「常食化を目指したケアの改善計画」は、介護・看護・栄養の協働で実施し、平成25年度の静岡県高齢者福祉研究大会でその成果を発表した。</p> <p>みなとの園デイサービスが主催者となり、南伊豆町のキャラバンメイトに依頼し、認知症サポーター講座を実施した。 開催日：4月24日（水）18時～19時 場 所：みなとの園デイサービス 講 師：南伊豆包括支援センター鈴木CM 参加者：デイ・ヘルパー及び南伊豆在住職員</p> <p>平成25年度は、新規のボランティアが3名増加したが、今後も南伊豆社協なども利用し、ボランティアの養成を継続していく。</p> <p>また、パンの日、シーツ交換、散発等のボランティアと職員が活動終了後に飲み物とお茶菓子で交流を図ることもあるが、積極的な交流とは言えない。今後は、ボランティア交流会等を企画し、積極的な交流を目指していく。</p> <p>平成25年7月30日（火）にグランシップで開催された静岡県高齢者福祉研究大会にて、「常食化を目指したケアの改善計画」という研究発表を行った。研究は3部門協働で実施し、発表者は鈴木栄養士、山本看護師、渡邊（直）CPの3人。 また、平成26年度の発表準備として、平成25年度から「個浴への取り組み（抱えない移乗法での入浴介助マニュアルの作成、マンツーマン入浴の確立）」の実践・研究を行っている。</p> <p>毎月、各部署の実績を取りまとめ、施設長会議で報告しているが、平成25年度（年間）の実績は以下の通り。 特養：目標稼働率 99.0% → 結果 96.2% 短期：目標稼働率 95.0% → 結果 92.2% 通所：目標利用者 450名/月 → 433名/月</p>
--	---

<p>6.新規事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規事業準備委員会の活動に積極的に参画し、法人の新規事業推進に寄与する。 ・地域に密着し地域に開かれた事業にするために、利用者、利用者家族、地域住民の代表者、地域包括支援センターとの積極的な連携を図る。 <p>7.防災計画の充実と見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害に備え、地域に貢献できるよう、南伊豆町と連携を密にし、地域の安心拠点となるよう防災計画等の見直しを検討する。 <p>8.メンタルヘルスケアの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員へのアンケート調査結果を分析し、衛生委員会を活用して、職員個々のメンタルヘルス対策として、日々のコミュニケーション、面接を重視したプログラムを実施する。 	<p>支援：目標件数 35 件/月→結果 36.6 件/月 訪問：目標 200 万円/月→結果 222 万円/月 特養が大きく目標を割り込んだ要因のひとつに、死亡退所が年間 16 名（平成 24 年度は 5 名）を数えたことがあり、短期利用者が特養に入所、デイ利用者が短期に移行という流れがあった。</p> <p>新規事業準備委員会に高橋施設長は毎回参加していたが、途中から小規模の管理者就任予定となったため 1 月 16 日付で施設長が変更になったが、変更後の施設長も新規事業準備委員会に毎回参加し、新規事業の推進に寄与した。</p> <p>南伊豆町の地域包括支援センターとは普段から密な関係を保ち情報交換を行っているため、連携強化のための会議等を改めて開催する必要はなかった。</p> <p>現在、梓友会の 4 施設合同で防災マニュアルを作成中であり、みなとの園からは小澤 CM がワーキングスタッフとして参加している。その完成を待って、みなとの園独自の防災計画を検討する予定である。</p> <p>みなとの園職員 64 名に「バーンアウトチェックリスト」（無記名式）と「職業性ストレス簡易調査票」（記名式）を配布し、約 90%の職員から回答を得た。その分析をみくらの里・上野ケアカウンセラーに依頼した。</p> <p>記名式の調査票は、上野ケアカウンセラーが個人宛に回答を行い、各自が“自分のストレス状態”を把握することに役立てた。</p> <p>また、バーンアウトチェックリストの分析結果を衛生委員会で報告し、産業医に意見を求めた。その結果、メンタルが落ちた職員や落ちそうな職員を周りがいち早く発見できるようお互いに注意し、対象者には素早い対応を行っていくことを確認した。</p>
---	--

平成 25 年度 太陽の里 施設サービス基本方針 進捗状況

平成 25 年度事業計画	進捗状況
<p>1. ガバナンスを重視した経営強化 (1) 社会的責任の明確化とコンプライアンスの遵守</p> <p>①社会福祉法人の職員としての自覚と責任が持てるように、研修会等での知識習得およびスタッフ会議等での意識づけを行う。</p> <p>2. 変革の取り組みを支える人材戦略 (1) 組織変革の担い手である、質の高い人材の育成及び育成体制の充実</p> <p>①教育担当者を設置する中で、ケアスタッフを対象とした教育計画を立て、指導を行う。</p> <p>②他者の気持ちを理解できる職員育成のため、外部研修、施設内研修でコミュニケーション能力を高める。</p> <p>3. 地域包括ケアの役割 (1) 住み慣れた地域、馴染みの人間関係の中での、良質の福祉サービスの切れ間ない提供</p> <p>(2) 地域の方々が安心と安全確保を担保できるサービスづくりと、地域の方々への情報提供</p> <p>①各部門の相談員は、連絡協議会等の会議の中で地域の専門職者と定期的に連携を図り、法人の事業内容や介護サービスの質等の情報を提供するとともに、地域のニーズ把握を行う。</p> <p>②民生委員、老人クラブ、ボランティア等との交流会を開催し、住民共同の社会資源であることへの理解を深めていくとともに、地域のニーズ把握を行う。</p> <p>4. キャリアパスの実施と充実 (1) 各職員が考える力を養ったり、物の見方や人間力を磨けるような、働き手に魅力のある職場環境の充実</p> <p>①働きやすい介護労働環境を整備する。キャリアパスを明示するとともに、研修計画を作成し、教育制度を明確にする。</p>	<p>①リーダー・職員会議およびケアスタッフ会議にて就業規則等参考に施設長が意識づけを行うとともに、部門の責任者が業務をする中で都度、指導・助言を行うように指示をするも、指導・助言が不足している感は否めない。部門の責任者に対して、責任者としての自覚と責任についての指導も課題であると考え</p> <p>①齊藤副主任、谷田部リーダーを教育担当者とし、特にご利用者の安心・安全の確保のための勉強会を介護の部門目標に設定し取り組みを行い、教育担当者が勉強会の中で指導・助言を行った。勉強会への参加率は70%と比較的高いが、まだ課題は多く、介護の担い手である介護者の質の高い人材育成は継続して行っていく必要はある。</p> <p>②外部研修、施設内研修は計画的に実行した。施設内研修にて、外部研修の報告等を行う事で、コミュニケーション等の能力は身につけてきている。</p> <p>①社協、西伊豆包括が主催する相談員会議やケアマネ会議に出席し情報提供及び情報収集する事で、ショートスティ、ディサービスの利用につながり、住み慣れた地域の中での生活継続の支援となっている。</p> <p>②平成 25 年 6 月 10 日にボランティア交流会を実施する。活動されているボランティアの中には民生委員や老人クラブの方もおり情報提供を行う事ができ、また、西伊豆町の情報等の収集を行う事もできた。</p> <p>①スタッフの実務経験に合わせた外部研修への参加を計画した。研修に参加した事で、他施設の職員との情報交換が仕事への意欲向上になっている。また、非常勤職員の 6 名の内 2 名を常勤職員に、4 名を正職員に変更した事で、働きがいのある待遇となり、職場環境が充実したとの声が聞かれている。</p>

<p>5、財務強化の充実と分析 (1)月次数値目標の達成と、水道光熱費をはじめとする各物品購入の低減 ①各事業に対して毎月の数値目標を設定し、目標達成を目指す。 ②水道光熱費の使用状況と高コストである「オムツ」の使用状況の把握を行い、分析をする中で使用量の低減を目指す。</p> <p>6、防災計画の充実と見直し (1)ご利用者、ご家族が安心する防災計画の作成 ①大きな地震による津波および風水害を想定し、西伊豆町の防災計画と連動した防災計画を策定する。 ②施設周辺の病院、老人保健施設、保育園および地域の方々との連携体制を構築する。 ③大きな津波を想定した避難訓練を計画的に行う。</p> <p>7、メンタルヘルスケアの取り組み (1)職場におけるメンタルヘルス対策 ①施設長は本部作成の教育プログラムを参考にし、教育訓練を行う。 ②予防や早期発見のため、施設長は計画立案の上、随時および定期的（3 ヶ月に 1 回）に傾聴面談を行う。</p>	<p>①②事務の部門目標に設定し、1 年間コスト低減に取り組んだ結果、電気代については前年比 4%の削減となり目標達成となったが、オムツについては、削減まで至っていないため、次年度は、介護の排泄委員会と連携し、具体的な削減方法を検討する方向でいる。</p> <p>①②③梓友会本部主催の防災会議に参加し防災計画を策定している。近隣の西伊豆病院、老健しおさい、保育園に、会議開催を働きかけは行ったものの、実現までは至っていない。また、避難訓練においては、海拔 2.7 メートルである事を意識する中で、毎月訓練を実施した。</p> <p>①②施設長は 6 月、12 月に全員と面接を行った。メンタル的にフォローしていかなければならないスタッフはなかったが、部門の責任者からの情報にて個別に面接を行った事例は 3 名のスタッフであったが、退職する事もなく現在も就業している。また、本部企画の「ヘルスケア研修」への参加の促しにて 25 名のスタッフの参加と、1 月には「職業性ストレス簡易調査アンケート」を実施し、スタッフのメンタル面の把握を行った。</p>
--	---

**介護老人福祉施設みくらの里
平成 25 年度 事業進捗状況**

平成 25 年度事業計画	進捗状況
<p>1. ガバナンスを重視した経営強化 ・コンプライアンスを第一とした事業運営を目指し、全職員対象に倫理及び法令順守の教育研修を年 1 回継続的に実施することにより、事業の透明性を担保する。</p> <p>2. 変革への取り組みを支える人材戦略 ①次世代の介護人材を養成する取り組みとして、昨年度に梓創塾で作成した OJT シートを使い、より実際に即した職員教育（1～3年目を対象）を実施する。</p> <p>②施設の持続的な成長を目標に、ユニットケアリーダー研修の受入れ施設として研修生を受入れると共に、グレードアップケアを継続的に推進していく。</p> <p>3. 地域包括ケアの役割 ・地元行政との連携をさらに深め、地域包括ケアの一翼を担うべく、地域拠点としての役割を果たしていく。 具体的な取り組みとして、下田市の委託事業である認知症施策総合推進事業を実施する。</p> <p>4. キャリアパスの実施と充実 ・人事考課制度の考課者勉強会等を実施し、評価格差の是正やキャリアパス制度の定着化を図り、働きやすい職場環境作りを推進する。</p>	<p>・施設サービス基本方針を全職員対象に行い、年度の事業計画およびコンプライアンスに関する内容を周知徹底した。また、新入職員については新入職員オリエンテーションにてコンプライアンスに関する教育研修を実施した。</p> <p>・OJT シートを改良し、より現場の状況に即した新 OJT シートを作成し、新たに入職した職員を対象に OJT 教育を実施した。</p> <p>・全国ユニットケア推進協議会よりユニットリーダー研修の受入れを行なった（年間受入れ数 30 名） また、継続的にユニットリーダー研修及びグレードアップ研修に職員を参加させ、職員教育を行なった。</p> <p>・平成 25 年度 下田市認知症施策総合推進事業を受託し、下記の各事業を実施した。 ・認知症啓発講演会 ・認知症サポーター養成講座（キッズ含む） ・介護・認知症なんでも相談 ・介護者の集い</p> <p>・多様な働き方の提供および改正労働契約法への対応などを踏まえ、新正職制度を導入した。 みくらの里においては、13 名の非常勤職員を新たに新正職として登用した。</p>

5. 財務強化充実と分析

・BSC シートを活用して各事業毎に数値目標を設定し、経費削減、予算執行状況および月次の進捗管理を確実に行うことにより、経営の安定化に寄与する。

6. 新規事業の推進

・法人本部と連携し、平成 26 年度開設に向けた、小規模多機能型施設プロジェクトの推進を着実に図る。

7. 防災計画の充実と見直し

・大規模災害の発生に備え、日頃の訓練の充実を図る。また、法人にて開催される総合防災会議と連携し、防災計画および防災設備の見直し、拡充を検討し、地域社会に貢献する。特に減災のための対応を検討する。

8. メンタルヘルスケアの取り組み

・ケアカウンセラーによる定期的な調査や支援策を実施する。具体的には職員のメンタルヘルス対策として、定期的な職員との面接や研修会の実施を通じて、メンタルケアが必要な職員の早期発見や支援、あわせて、予防および啓発教育の促進を行う。

・毎月、各部署の実績を取りまとめ、施設長会議で報告しているが、平成 25 年度（年間）の実績は以下の通り。

特養：目標稼働率 99.0%→実績 97.8%
短期：目標稼働率 95.0%→実績 94.4%
通所：目標利用者 450 名/月→実績名 461/月
支援：目標件数 35 件/月→実績 32 件/月

・小規模多機能型居宅介護みくらの里 開設準備委員会に参画し、小規模多機能型居宅介護みくらの里の開設準備および立上げを行なった。

・総合防災会議において各施設の防災マニュアル（自身および津波）の見直しを行なうための WG を組織し、現在、9 月を目処に新たな防災マニュアルを策定中である。

・メンタルヘルスに特化した広報誌としてカウンセラー便り「ラポール」を毎月発行し、メンタルヘルスの啓発に努めた。また、親友職員の定期面談の実施やアンケート・フィードバックを実施し、個々のメンタルの状況把握に努めた。

平成25年度 教育研修実績報告

H26.4.15

	内 容	詳 細
新 任 職 員 研 修	① 新任職員オリエンテーション	3月12日～14日 (新卒者7名)
	② 新任職員技術研修	4月1日～5日 (新卒者対象)
	③ OJT教育	各所属施設にて (7名)
	④ 5期生フォローアップ研修Ⅰ 5期生フォローアップ研修Ⅱ 5期生フォローアップ研修Ⅲ 4期生フォローアップ研修(2年目研修)	5月28日 (7名) 6月28日 (7名) 10月29日 (7名) 8月28日 (6名)
	⑤ 法人オリエンテーション	第1回 5月29日 (12名) 第2回 10月22日 (6名) 第3回 2月26日 (5名)
内 部 研 修 等	① 施設内研修(職員対象)	
	・施設企画1「平成25年度事業計画」「職業倫理・法令遵守」	梓の里 4月26日 みなとの園 7月19日
	「コンプライアンス」「食中毒感染症について」	太陽の里 6月13日
	「平成25年度事業計画について・感染症・食中毒について」	みくらの里 6月10日
	「平成25年度基本方針について」「食中毒予防」	梓の里 7月18日 みなとの園 11月22日 太陽の里 10月30日
	・施設企画2「食中毒・感染症について」	みくらの里 10月30日
	「感染症・薬の基礎知識について」	
	「感染症・食中毒予防対策等」	梓の里 10月22日
	「感染症予防及び対策について」	みなとの園 10月2日・9日・10日 太陽の里 12月26日
	・施設企画3「感染症対策」	みくらの里 12月16日
	「認知症について」	
	「内服薬について」「褥瘡対策」	
	「海外研修報告」	

	<p>・本部企画1「ストレスケアについて」(4施設合同実施)</p> <p>・本部企画2「4施設合同発表会」(4施設合同実施) *延期により4月に実施</p>	<p>梓の里 8月22日</p> <p>みなとの園 //</p> <p>太陽の里 //</p> <p>みくらの里 //</p> <p>梓の里 平成26年4月21日</p> <p>みなとの園 //</p> <p>太陽の里 //</p> <p>みくらの里 //</p>
	② 各施設及び各部署での勉強会	各施設・各部署にて実施
	③ 介護福祉士受験対策講座による資格取得の支援	模試：11月 9日 (7名) 実技対策：平成26年2月26日 (4名)
	④ 訪問介護員現任研修(静岡県委託事業)	1月31日～2月1日・2月15日(計3日間) 22名受講中 20名修了 (3日間参加にて修了証発行)
	⑤ 内定者フォローアップ研修 (平成26年度 新卒入職者対象)	11月30日～12月1日 (4名)
実 習 受 け 入 れ 等	【梓の里】 静岡県立頭部特別支援学校伊豆松崎分校 高等学部	7月1日～5日 (1名)
	稲梓中学校	10月16日～18日 (1名)
	【みなとの園】 下田高校南伊豆分校	6月 3日～7日 (2名)
	//	11月12日～15日 (1名)
	【太陽の里】 杏林大学	8月5日～9日 (1名)
松崎高校	10月17日 (3名)	

	<p>【みくらの里】</p> <p>下田高校南伊豆分校 // // 下田市教育委員会 下田中学校 // 下田高校 // 下田東中学校 稻生沢中学校 稻梓中学校 稻取高校</p>	<p>6月3日～7日 (5名) 8月20日～21日 (2名) 3月24日 (1名) 11月28日～29日 (2名) 7月18日～19日 (2名) 7月18日 (1名) 7月10日 (1名) 3月13日～14日 (1名) 10月9日～10日 (6名) 10月15日 (1名) 10月17日～18日 (1名) 12月10日～13日 (2名)</p>
その他	<p>・出張勉強会（梓友会主催）</p> <p>・福祉の仕事魅力発見セミナー （静岡県社会福祉人材センターより依頼）</p>	<p>10月 3日 下田東中学校3年生 11月29日 稲梓小学校3・4年生 5月 9日 下田高校南伊豆分校3年 6月 7日 下田中学校 6月13日 南伊豆東中学校</p>